

富士山測候所山頂庁舎の非常駐化について

気象庁では、昭和7年以来富士山頂に職員を常駐させ、高所における貴重な観測点として、気象観測を実施してきました。また、昭和40年からは太平洋上の台風を監視するため、気象レーダーの観測も開始しました。

その後、気象衛星観測による台風監視が充実したことから、平成11年に富士山頂でのレーダー観測を終了しました。また、種々の高層観測の手段が充実したこと及び自動観測技術が進展したことから、現在では、職員の常駐が無くても必要な観測を自動で実施できる状況となっています。

このため、平成16年の夏季期間後をもって、山頂庁舎での職員の常駐を終了します。

なお、非常駐化後の山頂庁舎の有効利用を図るため、今後関係機関と検討を進める予定です。

(参考資料)

富士山頂における観測の変遷及び測候所の現状

(1) 観測の変遷

昭和7年	富士山頂東安河原に中央气象台臨時富士山頂観測所を設立、通年の気象観測を開始
昭和11年	観測所を山頂剣ヶ峯に移転、中央气象台富士山頂観測所と改称
昭和19年	送電線が敷設(昭和41年気象庁に移管)
昭和22年	東京管区气象台所管となり、24年に「富士山観測所」、25年に「富士山測候所」となる
昭和40年3月	富士山レーダー完成
昭和40年4月	気象観測を気象テレメーター装置による観測通報に切り替え
昭和49年	送電線を更新
昭和53年	富士山レーダー更新
昭和59年	富士山レーダーのデジタル化
昭和60年	気象テレメーター装置を富士山測候所地上気象観測装置に更新
昭和62年	富士山測候所に火山観測用の地震計設置
平成11年11月	長野・静岡レーダーの運用開始に合わせて、富士山レーダーの運用を終了
平成14年	8合目に地震計1台を増設

(2) 測候所の現状

富士山測候所(富士山頂)

- ・常駐職員 4名(3週間毎に交代)
- ・業務 地上気象観測、観測機器の保守点検、庁舎管理
- ・観測項目 気象観測 風向・風速、気温、露点温度、気圧、日射量、天気
火山観測 地震計2台(うち1台は8合目)

御殿場基地事務所(御殿場市)

- ・勤務職員 富士山測候所長以下、山頂に常駐中でない測候所職員が勤務
- ・業務 山頂測候所における業務の後方支援
気象観測データの整理